

第24回

宗教倫理学会学術大会

*The Twenty-fourth Conference of
the Japan Association of Religion and Ethics*

2023年10月28日(土) 9時25分開会
龍谷大学響都ホール 校友会館 (JR京都駅南)

□ 研究発表 9:30~11:45

□ 公開シンポジウム (入場無料・申込み不要) 13:00~16:00

宗教の「自由」を再考する —現代日本を中心に—

基調講演：

権力・宗教関係から考える「信教の自由」

小川原正道 (慶應義塾大学教授)

シンポジウム：

登壇者

小川原正道 (慶應義塾大学教授)

小田淑子 (元関西大学教授)

小原克博 (同志社大学教授)

室寺義仁 (前滋賀医科大学教授)

司会

澤井義次 (天理大学名誉教授)

宗教倫理学会第24回学術大会テーマ
宗教の「自由」を再考するー現代日本を中心にー
Reconsidering Religious “Liberty/Freedom” : Focusing on Contemporary Japan

公開シンポジウム 13:00～16:00

基調講演 権力・宗教関係から考える「信教の自由」

小川原正道（慶應義塾大学 教授）

講演概要

近現代の日本において、「信教の自由」はいかにして守られてきたのか。明治から昭和戦前期にかけて、合計4度帝国議会に提出され、1939年に成立・公布された宗教団体法、および、戦後の宗教法人法（1951年成立・公布）を事例として、権力側が「信教の自由」に関わる法律を構想・立案した背景と、その条文を踏まえた上で、これに対して仏教、キリスト教、神道の各勢力が、いかなる評価・反応をみせたかについて検討する。この間、宗教勢力は「信教の自由」に対する権力の干渉に対して反対意見を表明し、立法過程に大きな影響を与えたが、戦時体制下では宗教統制政策に懸念を示しつつ、これを受容した。占領軍による「国家神道」と宗教団体法に対する否定的評価を踏まえて、宗教法人令、宗教法人法が公布・施行され、宗教者もこれを歓迎、自由と自主を自覚しつつ法人運営にあたってきた。現在の宗教法人が「信教の自由」を確保するにあたり、権力や社会に対してどのような姿勢を取るべきか。近現代の歴史から得られる知見を提供したい。

講師紹介

小川原正道（おがわら・まさみち）

慶應義塾大学法学部教授。

1976年長野県生まれ。1999年、慶應義塾大学法学部政治学科卒。2003年、慶應義塾大学大学院法学研究科政治学専攻博士課程修了。慶應義塾大学法学部准教授などを経て、2013年より現職。イリノイ大学ロースクール客員研究員、ハーバード大学ライシャワー日本研究所客員研究員、マサチューセッツ工科大学（MIT）歴史学科客員研究員などを歴任。

博士(法学)(慶應義塾大学)。専攻は近代日本政治史・政治思想史。

主要著作に、『日本政教関係史ー宗教と政治の一五〇年ー』（筑摩選書、2023年）、『慶應義塾の近代アメリカ留学生ー文明の「知」を求めた明治の冒険ー』（慶應義塾大学出版会、2023年）、『福沢諭吉 変貌する肖像ー文明の先導者から文化人の象徴へー』（ちくま新書、2023年）など多数。

龍谷大学 響都ホール 校友会館 アクセスマップ



アバンティ 9階
店内東側エレベータをご利用ください。